

第1回 伊方町総合教育会議議事録

【日時】 令和7年11月25日（火）15:00～16:40

【場所】 伊方町役場 3階 会議室

【次第】

1. 開会	2
2. 町長あいさつ	2
3. 教育長あいさつ	2
4. 議題	
(1) 伊方町教育振興に関する大綱について	3
(2) その他	5
5. 閉会	17

【構成員】 伊方町長 高門清彦

伊方町教育委員会

教育長 中井雄治

教育長職務代理者 道元 平

教育委員 西村美重

教育委員 玉里英一

教育委員 菊池嘉起

教育委員 二宮尚吾（※欠席）

【事務局】 町長部局

菊池副町長、谷村総合政策課長、他担当職員2名

教育委員会事務局

阿部学校教育課長、山本生涯学習課長

【傍聴者】 なし

1. 開会

(谷村総合政策課長)

ただいまから、令和7年度第1回伊方町総合教育会議を開催いたします。
開会にあたりまして、高門町長からご挨拶を申し上げます。

2. 町長あいさつ

(高門町長)

本日は第1回伊方町総合教育会議に、お集まりいただきありがとうございます。

ご案内の通り、この会議は平成28年度から毎年行っております。皆様方には町の教育行政の推進に、教育長を筆頭として、教育委員の皆様、また職員の皆様、それぞれご努力いただいておりますことに、感謝申し上げます。

現在の伊方町の一番の課題は、やはり人口減少でございます。その中で児童・生徒数の減少というものは、直面している学校統合を含め、教育界においても様々な課題が山積しているものと思います。皆様方の手を借りながらこの伊方町の教育行政を推進していかなければならない。その中で我々理事者側として、側面から環境整備をどう進めていくかというところに、重きを置いていきたいと考えておりますし、教育行政の執行につきましては、皆様方のお知恵を借りながら行っていきたく思っております。

その意味で、毎年この会議では皆様方から様々なご意見を聞かせていただき、大変参考になることばかりでございますので、本日もぜひ忌憚のないご意見を聞かせていただき、我々の方向性の参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお祈りを申し上げまして、開会にあたりましてのご挨拶に代えさせていただきます。

よろしくお祈りします。

3. 教育長あいさつ

(谷村総合政策課長)

ありがとうございました。

続きまして、中井教育長からご挨拶をお願いいたします。

(中井教育長)

本日は、高門町長をはじめ、町長部局の皆様には総合教育会議を設定していただき、ありがとうございます。また日頃より、伊方町の教育行政に多大なるご理解ご支援をいただき心より感謝申し上げます。おかげをもちまして、伊方町の学校教育、社会教育につきまして、順調に成果を収めていると考えております。

また、保護者の皆様に対し教材費無償化、給食費の半額補助、高校生の就学補助等々、幅広い教育支援が実現しております。そして、学校体育館、社会教育体育館の空調設備やLED化の推進、町民グラウンドの整備等、施設面の充実等も図られており、着実に教育環境が充実されてきております。

しかしながら、ご承知のように伊方町の教育行政は、大きな変革のときを迎えており、課題が山積している現状があります。最大の課題は先ほども町長が述べられましたが、人口減少、少子化による児童生徒数の減少であります。

それに伴い、学校再編計画に基づき来年4月から九町小学校が伊方小学校に統合の予定で、関係者からのご同意をいただいております。また現在、三机小学校、大

久小学校、三崎小学校の再編の話し合いも進められております。

人口減少は社会教育の面でも大きな課題となっており、町民の皆様の生涯学習や生涯スポーツ、文化面など、まちの活性化にも大きな影響を与えております。

教職員の働き方改革の問題も大きな動きがあり、給特法改正法施行による様々な要請を受け、その実現に努めていかなければなりません。あわせて中学校部活動の地域展開も国や愛媛県の方針によりますと、2027年度中には、休日の部活動を地域に移行する事となっており、伊方町でも県に準じて行っていくというようなところがあります。

ふるさとを愛し、社会の変化に対応でき、主体的に未来を拓いていく、たくましい子供を育てること。また、質の高い学校教育、生涯学習を推進して、まちの活性化につなげ、ひいては教育で選ばれるまちを目指していくことが大切であると考えております。

この総合教育会議につきましては、先ほど町長も述べられましたが、町と教育委員会が意思の疎通を図り、町民の皆様の声をしっかり反映しながら、伊方町の教育を進めていくための会議でございます。伊方町の教育にとっても、伊方町の行政にとっても、非常に大事な会議であろうと思っております。

これまでに、この会議の中から実際に教育行政を推進する中で、いろいろ生かされ働いている提案等もなされたという、実績のある会でもございます。

伊方町の教育にとって大変重要な会議でありますので、協議を深め、町長の考えと伊方町教育委員会の方針、その辺をしっかりと調整して行って、教育行政に今後反映していきたいと思っております。

皆様には自由で活発なご討議により、伊方町教育の改善に繋がりますよう、よろしくお願い申し上げます。私の挨拶といたします。ありがとうございます。

4. 議題

(1) 伊方町教育振興に関する大綱について

(谷村総合政策課長)

まず、議題1の「伊方町教育振興に関する大綱について」、教育委員会学校教育課から説明をお願いします。

(阿部学校教育課長)

伊方町教育振興に関する大綱についてご説明させていただきます。

主に昨年度の会議以降の取り組みについてのご説明となります。

お手元の資料、伊方町教育振興に関する大綱の3ページに4つの方針を掲げてございますが、この方針に基づきまして、教育委員会が取り組んでいる施策等についてご説明いたします。

まず、方針1の学校教育の充実に関しましては、現在、伊方町では人口減少対策を最優先事項として様々な施策に取り組んでおりますが、子育て支援の強化、教育環境の充実も重要な施策に位置付けられ、令和5年度より給食費の半額補助、令和6年度より高校生の通学補助、そして令和7年度からは、県内で初めて、全国でも事例の少ない教材費の無償化が開始されました。

その他にも他市町より秀でた伊方町特有の教育支援事業を実施しております。

環境整備といたしましては、令和元年に導入した中学校の1人1台端末の更新及び小学校に25台の電子黒板の追加配備を行い、日進月歩のICT機器ではございます

が、可能な限り最新の環境を整えるよう努力しております。

それらの活用状況ですが、学校同士をオンラインで結んだ合同授業等、小規模校のメリットを生かした取り組みに活用されております。

また小学生のプログラミング学習の講師も確保し、プログラミング授業にも着手しております。

それから、令和5年度から不登校支援教室の開設、令和6年度からは通級指導教室の開設等、配慮が必要な児童生徒への対応や、個性を重視した教育等の体制も整えております。

町内小中学校の再編につきましては、現在、伊方町学校再編計画（第二次）の実行の段階に入っております。本年7月には本計画における最初の統合となる、九町小学校と伊方小学校の統合調印式が行われ、来年度の統合に向けての準備が進んでおります。

また、2番目の統合となる三机、大久、三崎小学校の統合についても、今月合同準備委員会が設置され、話し合いがなされているところでございます。

子どもたちの体力の向上を図る施策といたしましては、昨年度はマンダリンパイレーツの選手をお招きしての運動教室を、今年度は小学校に世界陸上選手をお招きしての特別授業を実施いたします。

中学校の部活動におきましては、現在、地域連携の準備段階にあり、昨年度より拠点校方式を取り入れ、他校の部活動にも所属できることとしておりますが、次のステップとして、本年度より、一定の条件を満たしたクラブ活動を行っている生徒、並びに町の認定したクラブに所属する生徒は、部活動には所属しなくてもよいものとしております。また9月よりは伊方中のプラスバンド部の活動を、土日のみ地域移行をしております。

また学校の教職員にも地域の魅力を知る機会を提供するため、10月に教員向けの町内めぐりを実施いたしました。

次に方針2の生涯学習生涯スポーツの活性化に関してでございます。

まず、地域と学校との連携を深めるために、学校支援コーディネーターを各地域に1名ずつ配置し、各種事業を展開しております。

また今年度も、伊方町出身の著名な俳人坪内稔典先生をお招きして吟行を実施いたしました。今年度は三崎の秋祭りの拝観を吟行へ組み入れ、他所から参加された方に町の魅力を知ってもらう、文化観光的な要素も取り入れております。

スポーツの分野におきましては、第12回佐田岬マラソン大会が11月9日に開催され、初の千人越えとなる1,038名もの方にエントリーいただき、コロナ禍後の復活以降、年々参加者が増えている状況でございます。

また、ポッチャやモルック等、世代を超えて楽しめる、軽スポーツの器具を貸し出し用に購入し、これらの普及にも努めております。

そのうちの1つ、ポッチャにつきましては、瀬戸地域で今年初めて大会が開かれまして、予想を上回るチーム数の参加となり、定着の兆しが見えているところでございます。

また、昨年度よりスポーツ指導者資格取得補助金を設けて、各種スポーツの指導資格を取得する経費を補助しております。

次に方針3の伝統文化の継承と発展に関しましては、令和5年度にオープンしました佐田岬半島ミュージアムですが、本年7月には戦後80周年に合わせ、企画展「戦争と佐田岬半島」を開催し、3,000人以上の方にご来館いただき、好評を博しまし

た。

また、國學院大學との博学連携協定の締結等もございまして、メディアへの露出度の高さは、いまだ維持されております。

また、学芸員が日々発信しております Facebook の佐田岬デジタル博物館ですが、現在フォロワー数は約 1000 人にまで増えており、10 月に投稿した足成の牛鬼の動画は再生回数 1 万 5,000 回にまで伸びるなど、好調に継続されております。

また、各文化祭につきましても、瀬戸と三崎は中学校の文化祭と合同開催とする等、事業を盛り上げるための工夫を行っているところでございます。

最後に方針 4 の、信頼と共同でつくる全員参加のまちづくりに関しましては、地区別人権同和教育懇談会が、コロナ禍で一旦全地区休止を余儀なくされた影響がいまだ強く残っていますが、1 地区でも多く開催していただけるよう呼びかけの努力を継続しております。

人権フェスタ 2025 につきましても、12 月 6 日に今年度も開催の予定で準備を進めております。本年度は紅白歌手の木山優作氏をお迎えし、講演ミニコンサートというプログラムを予定しております。

次に国際交流関係の事業でございますが、レッドウィング市との交流事業には中学生 5 名を派遣、高校生の海外派遣留学事業については、オーストラリアのシドニーに 5 名の高校生を派遣いたしました。10 月には参加者による報告会が開催され、派遣生からそれぞれの成果が発表されました。

グローバル社会に活躍できる人材の育成ということで、英語力の向上を目指しておりますが、各公民館で小学生向けの英語教室を開催しております。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

(2) その他

(谷村総合政策課長)

ただいま、教育委員会事務局から、伊方町教育振興に関する大綱につきまして施策の方針等の説明がありました。この大綱に基づいて、いかに本町の教育の充実を図っていくかについて、意見交換に移りたいと思います。ここからは自由な意見交換の形で進めていただければと思います。

どなたからでも結構でございますのでご意見、ご提言、ご要望等ございましたら、ご発言をお願いいたします。

○高門町長

高校生のオーストラリア海外派遣を来年以降どうするか、という件について皆さんのご意見をお聞かせください。

もともとコロナ禍で海外派遣が中止となり、レッドウィング市に行けなかった中学生たちを救済するために、高校生の海外留学を始めました。そのコロナで行けなかった子たちは今年でカバーできました。本人にとっていい経験になるのはなるのですが、来年以降継続すべきかどうか、教育委員の皆さん方のご意見を参考にさせていただきます。方針を考えていきたいと思っております。

○道元職務代理

今回、体験発表会に参加させてもらいましたが、本人たちのプラスになる部分が大きく、いい体験になると思っております。場所がオーストラリアだと中学生のレッドウ

イングの期間と比べて日程が長いので、費用が多くかかってしまうと思いますが、日数を少し縮小してでも、こういう体験は必要ではないかと感じました。広く世界を見るということは大事なことだと思います。

○高門町長

留学のパック商品を利用しているので、日程は事業者が定めたものを選ぶ形になります。中学生は、自己負担20万円で、高校生は30万円ということで、それ以上は町のほうで負担しますので個人の負担は一定です。

続けるとしても、レッドウィングに行った子が高校生になって手を挙げたときに、行ってない子も手を挙げた場合、どちらを優先すべきなのか。成績はレッドウィングに行った子の方が良かったりするので、選考が難しい部分が出てくるのではないかと思います。すごくいい経験になるとは思います。

○道元職務代理

3年前から、民泊型の修学旅行の受け入れを引き受けており、年間10校近くの生徒さんが来ているのですが、本人たちにとっては貴重な体験となるようで、今までの観光メインの修学旅行ではなく、様々な地域を知るといふ部分では、非常にいい取り組みだと思っています。

○菊池教育委員

道元委員は継続するべきという考え方のようですが、私はレッドウィングに行けなかった子を救済するという目的が、すでに達成されたということをもって、やめるのも一つの考え方ではないかと思っています。

先ほど町長さんが言われたように、レッドウィングにも行き、オーストラリアにも行きたいという場合に、優劣をどうつけるかという問題もあると思いますし、日程も業者の方に調整してもらわなければならない。そういうこともあるので、初期の目標を達成したので高校生の海外派遣はもうやめますというほうが、私的には腑に落ちます。

○西村教育委員

今年行かれた子達には、中学校で行けなかったため、高校生になって行ってくださいという意味での留学という趣旨は伝わっているのですか。

もしかしたら来年はないかもしれないという認識は、来年以降に該当の高校生たちにあるのでしょうか。

○山本生涯学習課長

認識はしていただいているものと思っております。

○中井教育長

国際交流協会の会議の際にも出たのですが、来年やるかどうかについて明言はされていません。ですので、来年該当の子どもたちは「来年もある」、今年落ちた2年生は「来年また」という気持ちを持っている子どももいると思います。

○道元職務代理

それぞれの感想も町の広報誌に載りますし、それを見た子どもたちが「じゃあ、来年は自分たちの番だ」と思っている子もいるかもしれません。今回のように外交官になるという夢を持っている子もいれば、伊方町のために頑張りますと言う子もいます。

○玉里教育委員

私は行くのはいいと思うのですが、行く本人の気持ち次第で、いい経験となったかならなかったか、それを周りが判断するのは大変難しいと思います。ただ、行った子たちの意見を聞いてみると、ほとんどの子が、将来の夢に向かって大変いい経験ができたと言っていたので、広い世界を見てくる良い機会を与えるものとして、とても良い事業だと思います。この狭い伊方町にいて、そういう経験ができるという事はすごくいい事だと感じています。

○西村教育委員

できるなら継続していただきたいという思いはあるのですが、救済措置として始めたという事が、やはり気になります。

○高門町長

もし、何らかの形でこういう事業を継続するとすれば、ここで一回区切りつけて、新たな事業として何をやるか、という事を考えていかないといけないのかと思います。

ありがとうございました。また、参考にさせていただいて検討いたします。

○谷村総合政策課長

他にご意見等ございませんか。

○菊池教育委員

項目の4番の関係ですが、伊方町の人権行政について、現在、人権教育と人権対策の2つの組織に分かれているそれを、一元化できないかという提案です。私が現役の職員の時にもそういった議論がありました。問題点や課題等が色々あって、現在も2つの組織があるのですが、人権に関する施策というものは、教育委員会であるとか総務課であるとか、町民目線では分けて見ることはしないと思っています。そういうことも踏まえ、また行政の効率化ということも考えて、一元化するという考えはないか、町長の見解をお聞かせください。

○高門町長

そのことに関しては、私はどちらかというところ賛成ですが、実務的に難しいということも聞いておりますし、課として人権課にするか、それとも他の形にするのがよいのか、はっきりとはわかりません。ただ、人権対策と人権教育を一つにするという方向性は私もありと思っています。

○中井教育長

小規模自治体の場合、新たに人権の課を置くという事は色々難しいことがあると

思います。ただ、組織や業務が違ってても、人権というくくりでは一緒です。先ほど菊池委員が言われたように、町民目線から見れば、二つに分かれていては分かりにくいものと思います。そういうところを検討して分かりやすくすることは大事だと思いますし、長いスパンで検討してみて、できるものかできないものかを真剣に考えることが大事なことかと思えます

○高門町長

菊池委員は実務の経験がある上での提言ですから、もう少し具体的にどういう形になればよいと思えますか。

○菊池教育委員

かつては「室」という組織がありましたので、必ずしも「課」という組織でなくともよいと思えます。そういう「課」ではないけれども、人権行政を所管する独立した組織がよいと思えます。それを教育委員会が所管するか、町長部局が所管するかは、行政側の判断でよいのではないのでしょうか。

○中井教育長

今、室はありませんから、少し大きめの係でも構いませんよね。

○菊池教育委員

教育委員会の生涯学習課係から1人か2人か、総務課からも2人くらい割いて、4、5名くらいの部署となると、課まではいかないのかなという感じです。

○中井教育長

事業的には文部科学省と総務省の事業が別々にあるというところを、超えていかなければならないと思えます。

他の市町について、小さいところは伊方町と同じです。少し大きめの市になると課を置いているところがあります。一緒にするときにはいろいろハードルがありますが、それらを超えられるか、どうすれば超えられるかということ、検討していかなければなりません。

○道元職務代理

私は今年、職務代理者を務めさせてもらっていますが、総務課の人権対策の方から、沖縄と東京と群馬の3つの大会の案内が来ました。その中で沖縄の大会に参加させていただいたのですが、今月末、生涯学習課の方の大阪の大会と内容がほぼ同じでした。

○中井教育長

そもそもの主催が全然違います。本来であれば、人権教育と人権対策で参加を呼び掛ける対象者が違います。

○玉里教育委員

大会等は道元委員が一番強く感じているものと思いますが、こうやってご意見を聞いていると、内容が重なっていることが多いということは想像できます。ですか

ら、統合できるのであればその方が、よりいいのではないかと感じます。

○高門町長

これも宿題とさせていただきます。両方にメリットとデメリットがあるでしょうから検討事項ですね。

○谷村総合政策課長

それでは、町で検討ということといたします。
他にございませんか。

○玉里教育委員

学校教育の充実というところで、今、学校再編が進んでいる最中ですが、今後、伊方町ではさらに少子化が進むのではないかと考えています。再編が進んでいる中ではありますが、今後、より具体的な対策を町としてどのように考えているのかというのをお聞きしたく思います。

○高門町長

教育委員会がどう考えるかによって、町としての方向性を見出していきたいと思っています。そして教育委員会は、地域住民、保護者がどう考えるか、というところに重きを置いていただければと思います。町がこういう方向でやりますという風に打ち出すことはありません。

○玉里教育委員

そうであれば、少子化をできるだけ緩やかなものにする、少子化対策に関して聞かせてください。

○高門町長

ありとあらゆる、考えうることはすべてやっているつもりですし、できることは今後もやっていきたいと思っています。今、一番私が興味を持っているのは、二地域居住です。これは総務省も大きく取り上げてきましたが、一足飛びに移住していただきたいということは難しい。まずはいかに伊方に興味を持ってもらうか、そして興味を持ってもらったら、いかに来て遊んでもらえるか、その次は、行ったり来たりしてもらいながら、最終的に移住・定住に結び付いたら一番いいことで、そういう段階を町としてどういう風に組み立てていくかが政策に繋がっていくと思います。

ただ、二地域居住の場合、色々な問題があります。どこに税金を納めるのか、高齢者ばかり来て、医療費が上がるとどこの町がどう負担するのか等の課題もあるようですが、それも大事な視点かと思っています。

学校再編に伴っての大きな課題には、空き校舎をどうするのがあります。これもなかなか良い考えが浮かんできません。良い考えを思いついても、なかなか実現には結びつかないというのが現状です。

ぜひ、皆さん方のお知恵を貸してもらいたいですし、どうすればいいかを、一緒になって考えてもらいたいと考えております。

○玉里教育委員

最終的に中学校1校、小学校1校ということになると、距離的な問題で通学時間が一番の課題となるのでしょけれど、その点に関してはどうですか。

○高門町長

そういう方向性が決まったら決まったで、スクールバスをどうするか等、環境整備については町としてやっていかねばいけない課題ですが、一つにすべきか、二つにすべきか等を、町の方からいべきではないと思っています。

○道元職務代理

最近、学校の部活動、特に運動部の活動が難しくなっていて、地域移行についても、地域に支える人材がないという問題があります。小学生も学校が終わったら学童クラブにしか居場所がなく、体力の低下も心配ですし、先生の負担も大きいだろうと思います。ロボコンで全国出場など、違う方面での活躍も見えますが、今回の様に大きい大会に出られる事になったときに、今回は町が旅費を出したそうですが、今後もずっと出せるかは分からないというような話も聞きました。

○阿部学校教育課長

2日前の日曜日に県のロボコン大会があり、伊方中が1チーム、瀬戸中が1チーム、三崎中が2チーム、中四国大会に出られるようになりました。その費用について、当初予算には組んでいなかったのですが、流用で対応し補助しました。

○道元職務代理

そのあたりの予算の余裕というものは十分あるのですか。

○高門町長

そういった時に、町全体の予算として総合政策課に予備費が1,000万ありますが、周知できてないのですかね。

○中井教育長

いえ、そんなことはありません。教育委員会でも施設の屋根や防水シートが壊れたときに2回くらいは使わせてもらいました。でも急な対応はできないですね。

○高門町長

緊急性がどこまであるかなど、そういった判断をするのが学校教育課長です。的確な判断をお願いします。

○菊池教育委員

例えば、予算要求は根拠があつてのものであることは、重々承知の上ですが、今年の学校訪問では、様々な修繕箇所が目につきましたし、突発的な要望もあります。予算措置ができるのは3か月に1回の議会なので、予算がないからその3か月間、何もできないといった事もあると聞いております。予算には箇所付けがあつてしかるべきでしょうけれど、箇所付けなしということで柔軟に対応できるような予算の組み方もありではないかと思ひます。

○谷村総合政策課長

必要に応じて予算配分することになりますので、その修繕が必要なものかどうかを判断する必要があります。突発的な修繕といわれますが、まずは、現計予算で流用対応できるのであれば流用対応していただき、流用では対応できず、かつ、どうしても早急な対応が必要となると、予備費を切り崩してでも対応しなければいけないと思います。

○中井教育長

予備費を使ったら、次の議会で補充するということはしないのでしょうか。

○菊池教育委員

予算措置の問題であって、予備費が足りない可能性があれば増額できると思います。

○高門町長

予算が足りなくて、急を要する。その時に予備費を使って、予備費は次の直近の議会で充当して元に戻します、ということですね。

予備費はなるべく使わない最後の手段で、使うことは前提ではない。これは分かった上でのことにはなります。

○中井教育長

緊急性が高く、どうしても急いで対応したいという場合に、ご相談ということですね。

○玉里教育委員

2番の生涯学習の関係で、「伊方町人材育成事業」の話が先ほどありましたが、これに関して令和7年度の実績と、その他、補助事業、補助金として出しているものの今年度の実績があれば、どのようなものに使っているのかをお聞かせください。

○山本生涯学習課長

人材育成事業は、川の石高校が大阪の百貨店に物販に行くという事業に対し、旅費の半額を補助しました。また、スポーツの資格関係の補助制度を令和6年度に設けております。これはスポーツの講師関係の資格の新規取得や更新等にかかる費用への補助事業で、去年から周知されておりますので、今年度も結構な数の新規・更新両方の申請があり補助を行っています。

○玉利教育委員

新規では、どのような資格取得があるのですか。

○山本生涯学習課長

審判の資格やターゲットバードゴルフ、ペタンクやバスケの指導者資格となっております。また、別の補助事業になりますが、スポーツ団体等へも補助金を出しております。

○玉里教育委員

昨年も話をさせていただいたのですが、地域のリーダー育成について、例えば公民館事業等でリーダーを育成していくような内容のものがあれば、そこで積極的にリーダーを育成していかないと、なかなか難しいのではないかと思います。私は老人クラブ等の事務局をしていたのですが、リーダーの育成には非常に苦勞した経験があります。そういった分野でリーダーを育成していくというのは、具体的にどのような形になりますか。

○山本生涯学習課長

公民館事業の関係では、公民館の自治活動で主事会の時に、「この事業はこういう形でやっています」という見本となるモデル事業をご紹介します。ぜひ活用してくださいとお願いしております。

瀬戸地域ではボッチャの大会やその練習の関係で交流事業をするときに、ぜひ補助を使ってくださいということで内容を周知しました。今年度はそれを利用して、自治公民館の補助金申請も増えている状況です。少しずつですが、いろいろ見方を変えて、多種多様な企画をして、参加していただいて、公民館活動に取り組んでおられる地区も何地区か増えております。

○玉里教育委員

一過性ではなく、継続的という部分で繋がっていているのですね。そういった瀬戸地域だけではなく、例えばどこかのグループを通じて、伊方地区や三崎地区にも広がっていくと、ベストな方向性ではあると思います。

○西村教育委員

私が教育委員になって一番初めに、できれば作っていただきたいとお願いしたのが、発達支援の障がい者の子供たちの放課後デイサービスでしたが、伊方町にも作っていただきましたので、今年初めて見学させていただきました。子供たちが楽しそうに過ごしている姿を見て、伊方にできてよかったと非常に感謝しております。

次に要望したいのが「病児保育」です。「移住から定住へ」を考えたとき、子育て世代の人に住んでいただくことが一番だと思います。ただ、伊方町に知り合いがまったくいない方が移住してきたときに、頼れるところはなかなかありません。今は共働きが多いので、子供が熱を出して、仕事を休まないといけなくなったときに、近くにだれか家族や親せきがいれば「ちょっと見て」とお願いしますが、そういう風に頼れる人もいなかったり、近くにおじいちゃんおばあちゃんが住んでいても高齢になって、病気の子どもの世話を頼めないという話も聞きます。隣の八幡浜市には病児保育がありますが、使用できるのは八幡浜市に住んでいる人か、八幡浜市に勤めている人だけです。八幡浜市は白浜小学校の校舎の一部を使っており、看護師が1名と保育士もいます。使用は登録制となっており、子供の受け入れは1日6名までの体制だったと思います。伊方町も子育てにやさしい町として、病児保育を作っていただけたら、アピールポイントになると思いますが、いかがでしょうか。

○阿部学校教育課長

以前、保健福祉課長と一緒に瀬戸診療所に行って、病児保育についての協議をし

ましたが、その時点では看護師の人員確保の点が難しいという話になりました。福祉課から、三机小学校の一室を借りてとか、瀬戸診療所の一室を借りるという様々なプランを出しましたが、そこでは話がまとまらず、現在、進んでいません。

○中井教育長

どれくらいの必要性があるのか、毎日何人という目安があれば検討しやすいのですが、何とも言えません。ただ、そういうニーズがあるのは間違いがなく、それにどう対応するかということです。病児保育は必要だと思っています。

とりあえずは、学校で具合が悪くなった子供の対応として、保護者に「すぐに迎えに来てください」を「しばらくは見てあげますよ」という対応にできる緩和措置がとれるような体制にする等ですね。

○玉里教育委員

高齢者施設でも、デイサービスセンターでも、看護師が常駐しています。微熱があるとき、本来の対応であれば、すぐに受診するのがベストでしょうけど、それは家族の迎えの後になるので、家族が対応できないという場合は、静養室に隔離をして他の方にうつらないようにします。看護師が状態を見て、迎えに来られる時間までに見ていただくというような、西村委員が言われているのはそういう感じなのではないかと思います。

○中井教育長

スタッフが常時いるところはそういう風にできる。学校にそういうスタッフを構えて対応という事は、大きい学校ではあると思います。

○西村教育委員

それがあれば、見知らぬ土地で知り合いがいなくとも、子育てがしやすいかと思います。

○高門町長

色々なケアが充実しているという事は、大きな売りであるし、安心ですよ。ただ、伊方町内で東西の距離が結構あるところが気になりますね。送り迎えのスタッフもいますし。

○西村教育委員

検討していただけたらと思います。

○高門町長

今日、問題提起いただきましたので、また、担当課で検討いたします。八幡浜は専門でやっているのですか。

○中井教育長

専門ですね。安心・安全というところで専門がつかないと意味がないです。

○道元職務代理

白浜小学校だったら市立病院が近くにありますが安心感がありますね。

知らないところでの生活という関係で、今年度は九町小学校が、今後の予定では三机小学校、大久小学校、瀬戸中学校が閉校になって学校施設が4つ空くこととなります。そこを町内事業者等の事業所にとという提案も、学校の跡地利用としてありとは思いますが、ここ数年継続して地域おこし協力隊の人たちが伊方町中にやってきています。2～3年間、協力隊で活動して、その後、定住してくれる人は何人かはいますが、定住というのはやはり難しいのではないかと考えられます。

そこで例えば、学校の跡地利用として、協力隊関連の人が建物の管理を担って、ゲストハウスのような機能も併せたシェアハウスなどを運営してもらってはどうかと思っています。今、未咲輝塾で三機の青年団長をやられている人とか、説得できれば定住してくれるのではないかと思いますし、今、協力隊の方たちは個人的に活躍している人がたくさんいて、彼らの活動期間が終わったとき、果たして住居があるのだろうかと思うので、学校施設は空調も耐震も色々な事が整っているのだから、使えるうちに使っていけるような体制ができないか思うのですが、いかがでしょうか。

○高門町長

今、地域おこし協力隊の定着率はどれくらいですか。

○谷村総合政策課長

現役の13人を除いて、歴代で26人います、そのうちの7人が任期後も定住しています。

○高門町長

今、公営塾の先生には、任期が終わっても、役場の会計年度職員として、公営塾の先生を続けることもできます、ということは言っています。ただ、それは最終的には本人の選択ですからね。

学校をシェアハウスにして、ニーズはどのようなのでしょうか。

○道元職務代理

亀ヶ池物語は宿泊施設になっていますが、管理人がいないので、役場の総合政策課まで行って、鍵を手配してもらって利用するという手間がかかります。去年、教育委員会の研修で、淡路島のSAKIA STAYという、SAKIAグループというところが廃校舎を利用して宿泊施設にしているところに視察に行ったのですが、そのグループが今度、伊予市に、廃校利用だけでなく、その区域を統一してそういうエリアを作るらしいんです。

○高門町長

イメージは分かりますが、具体的に本当にそれで協力隊の方が、任期が終わって食べていけるだけのものができるのかどうかというところが、まだよくわかりません。

○道元職務代理

瀬戸アグリトピアの地域おこし協力隊の人は、家族で伊方町にやってきています。ああいうタイプの人たちに管理運営をやらしてもらえたら理想的だと思います。

ある隊員さん二人がどこかの保育所が空いたところを利用して、自分たちで何かやろうかと話をしていたのですが、保育所施設になると、水回り関係やトイレなど色々なものが小さすぎて、全部改修しないとイケなくなるので、それなら維持管理費はかかるでしょうが、小学校のほうがいいのではないかと思います。

それと、今、協力隊の人が住んでいる家で、持ち主が中の家財道具をそのままにしておいてくれと言っているところがあって、だから何にも触れなくて、家の中に前の人の生活が残ってしまっていて、生活しにくいということ聞きました。

○高門町長

住居については今、四国電力のアパートが建っていますが、町の職員は何部屋か貸していただけるようにしました。みなと荘の住人が、新しいアパートに移るのでみなと荘が空きます。そこを四電がどういう風に活用するかという協議をしているので、一泊貸し出しのアパートにさせていただくよう、頼んでいます。

三崎に住むところがないかという人や、三崎でパン屋をやりたいという人もいて、最近では、三崎のほうが人気あるようです。

○道元職務代理

二見地区では毎年大わらじを作って佐市峠に納めています。そこで使っている道はもともと、お遍路さん大名行列などが使っていました。その道の途中に行き倒れになった人たちを供養した供養塔もあって、まだまだ歩けば、いろいろ伊方町には魅力があるんです。その辺を探って行きたいと思っています。

○谷村総合政策課長

他にございませんでしょうか。

○道元職務代理

学校の先生の働き方改革について、先生がどれだけ仕事が大変で、長時間働いているのか、保護者からの過剰な苦情や不当な要求等、学校対応が大変になってきていて、今の先生たちの仕事が大変なのか、理解されていないところが多いのではないかと思います。

○高門町長

先生に対しての苦情は増えていますか。

○中井教育長

今は以前と違って、クレームは増えていると感じます。伊方町は他所ほどではないですが、例はあります。

○高門町長

これは根本の問題について、町がどうこう言うものではないですが、文科省とは別で、町としてできることは何かありますか。

○中井教育長

働き方改革というところで、サポートできるような教員OBを、各学校1人ずつ

配置し、その上にスクールサポートスタッフを数人配置するなど、伊方町は他の市町に比べて人員は結構、手当しています。予算的にそういうところを認めていただいている点は非常にありがたいです。今後、学校数が少なくなっても負担は同じなので、そういうところや施設面の整備などを継続して見ていただきたいと思っています。

それから、教員についての理解といわれましたが、周りが理解してくれて、地域の人や役場等、様々なところがサポートしていく体制づくりというのも大事なことでと思います。町長部局としても力を貸していただきたいと思っています。

○道元職務代理

伊方町の若い世代の子たちが生き生きとできる場所になってほしいですね。

○谷村総合政策課長

それでは、多くのご意見いただきましたけれど、時間の都合がございまして、議題1を閉じさせていただきます。

続きまして、その他、ご意見ありませんでしょうか。

○高門町長

子育てに関してですが、現在、出産するとなれば、病院は大洲か宇和島か松山にしかありません。産院へのタクシー補助はやっていますが、出産日が近づくとやはり不安になります。そこで出産時の滞在費を来年から補助したいと考えています。

○谷村総合政策課長

その他、ございせんか。

それでは、以上で議事を閉じさせていただきます。最後に副町長の挨拶をお願いいたします。

5. 閉会

○菊池副町長

初めて参加させていただきました。皆様のご意見等、拝聴させていただきました。改めて教育機関は大変だなと思った次第でございます。皆様方のご意見を参考にして、また、教育にとってもよりよい町行政を推進いたしますよう、町長、教育長とともに頑張っていりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。本日は、これを持ちまして、閉会とさせていただきます。ありがとうございました。